

団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 NPO 法人 EnVision 環境保全事務所

所在地	〒060-0807 札幌市北区北9条西4丁目5-2-202 TEL:011-726-3072 FAX:011-726-3072 E-mail:yobu14001@env.gr.jp		
ホームページ	http://www.env.gr.jp		
設立年月	1997年 月 日 * 認証年月日 (法人団体のみ) 2004年5月14日		
代表者	金子 正美	担当者	吉村 暢彦
組織	スタッフ 12名 (内専従 5名) 個人会員 名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 名		
設立の経緯			
団体の目的	自然環境についての新しい技術開発や政策提言を通じて自然環境の保全に役立つこと		
団体の活動プロフィール	<p>EnVision は、1997年に任意団体としてスタートしました。これまでに主として北海道や環境省などの野生動物保護管理に関わる調査・研究およびデータベース作成業務などに携わり、地域の自然環境行政に貢献して参りました。</p> <p>EnVision (エンビジョン) とは、"En"vironment (環境) と "Vision" (展望) を掛け合わせた造語で、「環境について新しい展望を切り開き、提案する」という私たちの意志を表しています。そしてその活動を通じて自然と人間の良好な関係を築いていきたいという願いを込めてきました。</p>		

活動事業費 (平成17年度) 円

政策のテーマ

地域環境情報案内人制度

- 政策の分野
- ・環境パートナーシップ
- 政策の手段
- ・情報管理、情報の開示と提供

団体名：NPO 法人 EnVision

担当者名：吉村 暢彦

政策の目的

地域の環境に関する科学的な情報の流通と、それを通じた人材育成を目的とする。Think Globally act locallyではなく、しっかりと地域を考えることができるような基盤づくりと、広く活動できる人材育成（Think locally act Globally）を目指す。

背景および現状の問題点

現在インターネットを活用して、環境に関する統計情報、地図情報等の公開が進んでいる。しかし、インターネットでは、使用環境やスキルがないユーザーでは利用できない、情報が公開されていること自体の周知不足などから一方通行の情報発信になりがちである。

特に、流域全体の情報等、広範囲の自然環境や社会環境の科学的な情報については、地域の環境を議論する「ベース」として重要であるが、このような情報利活用には、ある一定以上の知識や技術、資金が必要であるなどハードルが高い。

政策の概要

ねらい

環境情報案内人を通して、植生図や土地利用図や衛星画像といった**俯瞰的な地域の環境情報を地域で活用できるようにする**。また、地域間の情報交流を促す。

体制

1. **ブロック拠点**（EnVision）：統計情報や地図情報等を管理し、データの加工や利活用についてのアドバイスを環境情報案内人に行う。
2. **環境情報案内人**：既存の指導員や学校の先生、地域の大学生、NPO、NGO等。現在の活動の中に、地域の環境情報を活用する。

内容

環境情報案内人を各地域で依頼し、ブロック拠点が各地域の状況を知るためのコンテンツを、案内人とともに作成する。案内人は、現在の活動の中でコンテンツを活用するなど、地域の環境情報の流通を促す。コンテンツは基本的に紙ベース。

環境情報案内人とブロック拠点は、ミーティングやメール、インターネットでやりとりし常に、地域の情報を交換する。ブロック拠点は、ここで知り得た情報を、インターネットで広く発信する。様々な地域の案内人が集まり、他地域との関係性を知るためのイベント等も開催する。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

ブロック拠点：（北海道の場合）NPO法人Envisionや道の試験研究機関、大学
 地域情報案内人：各種指導委員、教員、大学生、NPO、NGO等

政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

効果

- 1．これまで蓄積された地域の情報を地域で活用することができる。
- 2．人と人とのコミュニケーションを通して情報提供ができる。
- 3．地域のことを知る機会を作ることができる。
- 4．地域環境情報案内人などが地域の環境の担い手として活躍するきっかけになる。
- 5．各地の議論がスムーズになる可能性が高い。
- 6．地域間の情報の交流のきっかけになる

その他・特記事項

ESD的な観点が含まれると思う。